

統合新病院の整備に望ましい場所について（テーマごと/論点整理）

資料 2

| 区分 | 論点 | 第4回共同経営・統合新病院整備調整会議 (共同経営・統合新病院の検討対象地に係る 外部有識者からの意見聴取) | 青森市統合新病院整備場所等検討会議 | | | |
|-----------------|---|---|---|---|---|---|
| | | | 旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地 | 青森県総合運動公園 | 青い森セントラルパーク | 浜田中央公園・県営スケート場周辺 |
| まちづくり 通院アクセス | 都市計画 との整合 | 青森市都市計画マスタープランでは、既に青森市が持っている様々な機能や拠点を区域として定め、何か新しい施設や機能を作る際は、これらの区域に誘導しようという考えの下、都市機能誘導区域等を定めている。 新病院整備に当たっては、青森市都市計画マスタープランの考えに則るとともに、整合を図っていくことが望ましい。 | ・生活拠点区域に入っており、青森市都市計画マスタープランに沿っている。 | ・地区拠点地域ではなく、青森市が目指す都市計画に合致していない。 | ・都市機能誘導区域に入っており、青森市都市計画マスタープランに沿っている。 | ・生活拠点区域ということで医療施設立地の適地ということである。 |
| | まちづくりに 与える影響 | 新病院ができることにより、新たな人の流れが発生する。一般論として、多くの住民が利用する施設は、中心部にあると利便性が高く、コンパクトなまちづくりが可能となる。 | ・中心市街地から離れているので、青い森セントラルパークの中心性を考えると整備場所としては劣る。 | ・人口減少が進む中で、都市機能の分散化を引き起こすことは、都市全体の活力の空洞化を生むリスクがある。 ・中心市街地から離れているので、青い森セントラルパークの中心性を考えると整備場所としては劣る。 | ・郊外よりは中心部を起点にした方が患者の利便性向上や青森市の活性化につながる。 ・新駅がなければ中心部の活性化は難しい。 | |
| | 圏域人口・ 移動時間 | 自動車到達圏人口から、単純に街の端にあるより真ん中にあることが地理的に良く、多方向からアクセスすることができる。 | ・場所が片寄っているので、県全体からみれば、近くなる人もいれば遠くなる人もいる。 ・市の中心部から東側に寄っており、移動距離や時間において公平性が確保されてるとは言えない。 | ・場所が片寄っているので、県全体からみれば、近くなる人もいれば遠くなる人もいる。 | ・青森市の真ん中にあり圏域人口が一番多い。 | |
| | 道路状況 (渋滞対策) | 新病院の整備によって、周辺道路の利用状況が現状より増えることは容易に予想されるが、どのくらい混雑するのかは、患者などのデータを基に交通量シミュレーションを行い、どのくらいの影響が考えられるかを検討する必要がある。 | ・現状と同じアクセスである。 | ・踏切があるので非常に渋滞する場所。道路幅に当たっても私有地の用地取得が必要となるので整備に時間を要する。 ・浪館通り自体がそんなに良い交通状況ではなく、国道7号青森環状道路もそれなりに渋滞している。 | ・新駅整備が実現すれば、道路渋滞緩和の観点からも有益。 ・荒川通りと観光通りの渋滞を少しでも解消していくように努めるべき。 ・線路をまたぎ真っ直ぐの道路を作ることができればかなり便利になる。 | ・県営スケート場付近の道路は狭く、冬場に雪が積もると渋滞が発生する。 ・旧イトーヨーカ堂周辺の道路について、すごく混雑する。 |
| 公共交通 | 病院は、高齢者や妊婦さんなどいわゆる交通弱者が多く利用する施設であることから公共交通であるバスが重要であり、県全体からのアクセスを考えると、バスだけではなく鉄道でのアクセスも考慮することが望ましい。 | ・バスの運行便が確立されており、統合新病院整備による市営バスの他路線への影響がない。 | | ・候補地として考えるのであれば、新駅の設置は必須。 | ・市営バスについて、この周辺は便数は少ないものの利便性は良い。 | |
| 救急搬送 | 到達圏人口・ 位置関係 | 中心に位置することで東西南北からアクセスでき、医療機関収容までの時間が短縮され、救命率の向上が期待できる。 | ・救急病院の配置バランスを考慮する必要があるのではないかと。 | | ・少しでも早く医療機関に到着するためにも走行時間は短くしたいと考え、中心部に医療機関があることが非常に望ましい。 | ・圏域全体のベネフィット(便益)という意味ではやや浜田中央公園・県営スケート場周辺が優れているように見える。 |
| | 患者搬送環境 | 救急自動車の走行時間の短縮や、傷病者の安静を確保した状態で搬送するため、十分な道路幅員を確保することや、傷病者の負担にならないような平坦な路面、また、冬期間における確実な除排雪による搬送経路の確保などが望ましい。 | ・主要幹線道路の国道4号から至近距離にある。 | ・浪館通り側は、道路幅員が狭く、バス停留所も確保されておらず、普段から混雑している。 ・青森県総合運動公園までの経路である浪館通りには線路が2か所あり救急搬送を行う上で気になっている。 | ・冬場のセントラルパーク周辺は、通行が大変であり、救急車が大丈夫なのか心配。除雪や道路改修などの対策をしっかりと講じるべき。 ・荒川通りと観光通りからのアクセスが問題。 | ・環状7号バイパスは高速道路の高架下という構造上の問題もあり、反対車線の走行車両をほぼ確認できない状況で進入していかなければならず非常に危険な状況の中での走行となる。 ・観光通りからバイパスを経由するルートは非常に遠回りとなるため、旧イトーヨーカ堂の通りがメインになると考えてもらっても差し支えない。そのため、旧イトーヨーカ堂の通りの道路幅や除雪による救急搬送の経路確保といった渋滞対策等が必要であると考え。 |
| 災害関連 | 地震 | ・想定されている震度6クラスの地震の場合、現行の耐震基準を満たせば、躯体には影響ないという判断はできる。 ・新病院は災害拠点病院として災害時でも継続して医療提供が求められることを踏まえると、免震構造という対策を講じるにしても、現在判明している断層など危険性のある場所からなるべく離れるなど、安全性を考慮する必要がある。 ・地震は、広域的に被害が発生するので、建物の倒壊や設備、機器の破損、ライフラインの断絶は想定するべきである。 | | ・入内断層が近隣にあることが分かっている。建物を免震や制震で建てられるのであればあまり問題とならない。 | ・巨大な地震に備え道路幅といったさまざまな検討が必要。 | |
| | 津波 | ・津波は建物への浸水だけではなく、押し流された船や自動車などが衝突し、建物などを破壊するといった影響も考えられる。 ・津波により広域的に被害が発生するので、建物の倒壊や設備、機器の破損、ライフラインの断絶は想定するべき。 ・技術的な対策を講じるならば、防潮堤などの方法が考えられるが、その余分にコストがかかる。 ・仮に施設機能が維持されても、物資の搬入やスタッフの交替要員の受入れルートの確保など運営体制の維持が難しいと思われるので、できれば津波が想定される場所は避けるべきと考える。 | ・津波は地震に伴う広域災害であり病院も広範囲で被災することが想定される。 ・津波によって診療機能が低下することは避けたい方がよく、避けられるのであれば避けるべき。 | ※津波浸水想定区域外 | ※津波浸水想定区域外 | ※津波浸水想定区域外 |
| | 洪水 | ・洪水は地震や津波などと違い、多くの傷病者が災害拠点病院での診療を必要とすることは想定しにくい。 ・想定浸水深0.8m程度であれば、土地を嵩上げすることで浸水を防ぐことは技術的に可能である。 ・浸水対策で施設機能が維持できていれば、1m程度の浸水がある場合でも、備えをしておくことで災害拠点病院として機能を維持することは可能である。 | | ※洪水浸水想定区域外 | | ・浜田中央公園は貯水機能を有している公園。 |
| 【災害全般】 | ・元の立地場所が既に災害関連の重要施設であって、しかも代替が効かないという可能性があるのであれば、それはしっかり確認してから資料をそろえる必要がある。 | | | | | |
| その他 | 周辺環境 用地取得 | | | ・隣接する三内丸山遺跡を見てもらうことで入院患者に希望を与えられる。 ・ユネスコとの協議や建物の制約がある。 | ・アリーナの整備によって敷地が小さくなってしまった。 | ・土地の形状をみたとき、真ん中が絞られたような形となっている。仮にここに病院を設計するとすると、どういかに設計するのか、少しやりづらいと感じた。 |